

佐々木 圓和さん（2015年－2016年 オーストラリア）

私は AFS の派遣生としてオーストラリアに 10 ヶ月間留学しました。ほぼ一年に渡って現地の家庭で生活し、現地の学校に通うというとても貴重な体験を通じて、私はたくさんの方のことを学び、たくさんの方に出会い、たくさんの方のかけがえのない思い出を作ることができました。

慣れ親しんだ環境を離れ、海外に留学するという決断を下すのは簡単なことではありませんでした。私は小学生の時に母の仕事の関係で、母と妹と私の家族三人で、2年半の間オーストラリアに住んでいたことがありました。しかし、それでも家族のもとを離れて海外で一人で生活していくというのは、とても大それたことのように思えました。せっかく慣れてきた高校生活を後にするのも最初は気が進みませんでした。しかし、海外で学ぶまたとないチャンスを逃すまいと思い、留学を決断したことを、留学を終えた今ではとてもよかったと思っています。

私がオーストラリアに行こうと思った理由は主に二つあります。まず一つ目は、小さい頃に住んでいた町を訪れてみたかったからです。幸運にも、向こうに滞在中に昔通っていた学校や住んでいたアパートを訪れることができました。二つ目は、オーストラリアが英語圏の国だったからです。英語は割と得意なほうだったので、できれば英語圏の国に行きたいと思っていました。

いざ現地での生活を始めてみると、まず英語で周りの人とコミュニケーションを取ることの難しさを痛感しました。一方で、毎日大量の英語を耳にし、喋るので、英語の上達も驚くほど速く進みました。最初は苦しめられていたオーストラリアの訛りも今は使いこなせるまでになりました。

語学の上達はもちろんですが、現地のホストファミリーと家族の一員として生活していくなかでオーストラリアの文化を肌で吸収することができました。生活様式の大小様々な違いを通じて考えかたの違いや価値観の違いをホストファミリーや向こうの友達と共有できたことはとてもいい経験になりました。また、オーストラリアで出会った、世界中からの留学生達との交流を通じて得られたグローバルなビジョンも大きな収穫の一つです。

これらの貴重な体験ができたのは、多くの方の支えがあったからです。新潟市国際交流協会から奨学金をいただいたことも大きな支えになりました。これからはこの体験を社会のために役立てていくとともに、これから留学することを考えている人や日本に来ている留学生を支える活動にも参加して行きたいと思えます。